

# マンツーマンで対応

## かながわボランティア活動推進基金21奨励賞

障害のある人とその家族が、地域で自然に暮らしていける社会であってほしい。そのため、特定非営利活動法人（NPO法人）の「パーソナルサービスセンター・トムトム」（上杉桂子理事長）は、二十四時間三百六十五日体制で、一時預かり、外出付き添い、宿泊などのサービスを行っている。マンツーマンが基本。障害の種類、年齢、利用の理由も問わない。家族の負担を軽減するだけでなく、障害児者が社会に触れ合う機会を増やし成長の糧とする。発足から二年半、トムトムは障害児者の家族にとって、かけがえのない存在になっている。

（報道部・熊谷 和夫）

「近くに頼りになる親族の種類、程度、また年齢に 崎を中心に平塚、寒川、藤も少なく、ストレスで爆発寸 よっては、だれかが付きつ 沢の四十八家族が利用して

## 障害児者の家族を支援

# かけがえのない存在に

前どころまで追い詰められていました。でもトムトムの会員になって、暗やみから光が差し込むように心が晴れ晴れしました」。会員 障害児者のケアは、障害

「家族も友達も支えられない時のために、第三者のサービス組織があれば」という願いから生まれたのがトムトムだ。県立茅ヶ崎養護学校の開校を契機に、児童の保護者、支援者が一九九九年七月に設立した。活動拠点は、福祉施設一階の2DKのスペース。さらに近くの民家も借りた。茅ヶ



ゲームをしたり、おんぶしてあげたり、マンツーマンで子供たちに対応するトムトムのスタッフ  
＝茅ヶ崎市萩園

いる。ケア対象のほとんどは、知的障害のある小中学生たちだが、四十代の成人もいる。サービスの中心は、保護者の緊急事などに二十四時間年中無休で一時預かりなどをを行う「パーソナルサービス」。そのほか、養護学校の放課後にトムトムの部屋や公園で過ごす「学童クラブ」夏休み期間中の「余暇支援」というプログラムもある。手厚いケアを行うためマンツーマン対応が基本で、常勤職員三人、非常勤職員十人、ボランティア約五十人で支えている。二〇〇〇年度は三千一件、八千九百十七時間の利用がある。

トムトムの部屋では、寝そべって絵を描いていたり、職員におんぶしてもらったり、すっかり安心して遊んでいる子供たちの姿を見ることが出来る。

常勤職員の本間太郎さん（三〇）は「本人の成長のためにも家族、学校以外の第三者とかかわることが必要。コミュニケーションや遊びを通して自己規制、社会性を身に付けることが出来ます」とトムトムの積極的意義を語る。本間さんは入所施設に勤務したこともあり、「入所施設は多額な経費がかかっているのに、ケアは不十分になりがち」と指摘する。本人のためにも、社会的コストの面からも、障害児者が地域で安心して暮らしていける社会が必要と訴える。

課題は運営資金だ。会費と利用料金が収入源のほとんどとあって、職員の献身的努力で成り立っている。全国では、トムトムのような事業の必要性を認識し補助金を出す自治体も増えてきている。会では、自治体を含め、多くの人の支援を求めている。

【メモ】所在地は、茅ヶ崎市萩園1-6-24の2。☎0467-58-8888

カム・トウゲザー

市民活動は今